

松浦ゼミナール

長崎に残る中国ほか

外来の伝統文化調査

神奈川大学 外国語学部 中国語学科 松浦智子  
 神奈川大学 外国語学部 中国語学科 4年

加藤瑠来・小谷慶太・菅原悠央・田中羽菜  
 堀越翔・緑川未紗・柳川流歌

2025年2月10日〜12日にかけて、人文学会の補助を得て、外国語学部中国語学科松浦3年ゼミのみならず、長崎フィールドワークを行いました。この時期は、春節からつづく元宵節の時期にあたるため、多くの文化施設で中国由来の伝統的なお祭りを調査することができました。調査スケジュールとルートは以下の通りです。

- 2月10日…出島、唐人屋敷、ランタンフェスティバル@長崎新地中華街
- 2月11日…福濟寺、聖福寺、眼鏡橋、興福寺、崇福寺、ちゃんぽんミュージアム、孔子廟、グラバー園
- 2月12日…自由調査

以下、いくつかの調査地点について簡単な報告を参加学生に執筆してもらいました。

(ゼミ担当教員・松浦)

【1日目の報告】

◆唐人屋敷

唐人屋敷は、江戸時代、密貿易やキリスト教の浸透などを防ぐため中国人を集住させた居留地跡で、出島

と共に海外交流の窓口として重要な役割を果たしました。今回の合宿では、春節祭のランタンフェスティバル期間中に唐人屋敷跡で開催されていたロウソク祈願四堂巡りを体験し、道教の神々に祈願しました。また、蔵の資料館では唐人屋敷の歴史や江戸時代の貿易、文化交流、信仰について学び、当時の人々の暮らしをより深く知ることができました。

(柳川流歌)



旧唐人屋敷内の土神廟。土地神をまつる廟では、元宵節にあわせてロウソク祈願の台がもうけられていた

◆長崎新地中華街

長崎新地中華街は、横浜・神戸と並ぶ日本三大中華街の一つで、約40店舗が軒を連ねるコンパクトながらも魅力あふれる観光スポットです。本格的な中華料理や長崎名物のちゃんぽん・皿うどんが楽しめるほか、異国情緒漂う空間や歴史的な建造物も広がっているため、非日常を味わうことができます。

今回はランタンフェスティバル開催期間中に訪れたこともあり、街全体がランタンの灯りに包まれ、より



ランタンフェスティバルのメインイベント会場・長崎新地中華街湊公園内にある関帝廟。中華式のお供えものがぎっしり



ランタンフェスタのメイン会場。あざやかなランタンを見に来た人でいっぱい

一層非日常的な空間だと感じられました。静かに灯るランタンで彩られた通りや川沿いの橋を散策する時間は、まさに時間を忘れるほど心が癒される体験でした。歴史やイベントを楽しむことができるこの場所は多くの人に訪れてほしいスポットです。

(菅原悠央)

【2日目の報告】

◆眼鏡橋

長崎ゼミ合宿の2日目に私たちは眼鏡橋を訪れました。眼鏡橋は日本三大名橋に数えられる現存最古のアーチ型石橋の一つで、国の重要文化財にも指定されています。川面に映る影はしっかりと眼鏡に見え、またランタンフェスティバルの時期だったこともあり、周辺は華やかに飾られていました。中国の石橋技術をもとに作られたという歴史にも触れ、当時の異文化交流の痕跡を感じる事ができました。ハートストーンが恋愛成就のパワースポットとしても注目され、多くの人が触ったり、写真を撮ったりしていました。

(緑川未紗)



長崎新地中華街の側の眼鏡橋。川面に映る橋を遠くから見るとメガネのよう

◆興福寺  
 興福寺は、日本で最初に立てられた唐寺で日本黄檗宗発祥の地です。1632年、第二代住職である黙子如定が本堂の大雄宝殿を建立し、その後暴風で大破したため、1883年に再建されています。現在の大雄宝殿は、国の重要文化財に指定されています。

1654年には、日本黄檗宗の開祖である隠元が招かれ、第四代住職となりました。隠元は、インゲン豆や煎茶などを中国から日本にもたらし、日本の文化に



興福寺本堂。  
本堂前部の柱は原爆の爆風の影響で  
みならず湾曲している

多くの影響を与えました。境内には大雄宝殿のほか、旧唐人屋敷門や興福寺鐘鼓楼、興福寺三江会所門などがあります。興福寺三江会所門に関しては、放し飼いの豚が門内に入らないように、敷居が高く設けられている点が印象的でした。

(田中羽菜)

#### ◆ちゃんぽんミュージアム

長崎の名物「ちゃんぽん」の魅力と歴史を学ぶために、ちゃんぽん発祥の店である四海樓が運営するミュージアムを訪れました。ミュージアム内では、ちゃんぽんの歴史や文化に関するさまざまな興味深い資料が展示されており、展示物は写真も撮ることができました。また、四海樓とミュージアムが入った建物は、外観も立派で、長崎の食文化の奥深さを感じることが出来ます。残念ながら、私たちが行った時間帯は館内での食事提供が終わっていたため、実際にミュージアムに隣接する四海樓でちゃんぽんを食べることはできませんでしたが、近くのグラバー通りにある「長崎レストラン「マリア館」で、みなで本場のちゃんぽんをいただきました。野菜たっぷりスープも濃厚、とても美味しく大満足でした。

(加藤 瑠来)

#### ◆長崎孔子廟

長崎孔子廟は、1893年に清国政府と在日華僑が協力して建立したもので、中国の山東省曲阜にある総本山と同じくらい建物の随所に壮麗な伝統美を凝らした、日本で唯一の本格的な中国様式の霊廟なんだそうです。



長崎孔子廟の正門。  
正門脇には伝統的な形式で  
石碑が配置されている

中国では赤は縁起が良い色とされているからか、外から見ても、中に入っても赤い建物や彩灯が所々にあったのですが、「色が眩しい！」といったことはなく、寧ろ正面から見ると配置が左右対称的であったり、建物は色落ちがあつたりと、孔子廟の長い歴史や日本とは違った異国の祭祀の様子を感じられる空間でした。入り口から少し進むと、72人分の孔子の弟子である賢人の石像が左右に並んでいました。よく見ると衣装や仕草、表情が全部違って細かく彫られており、一人一人の表情を観察するだけで1日が終わってしまいうでした。

(小谷慶太)

#### ◆グラバー園

長崎のグラバー園は、スコットランド人貿易商トーマス・グラバーの邸宅を中心とした観光施設です。園内には当時の洋風建築がいくつも残されており、日本と西洋の文化が融合した異国のような雰囲気漂っていました。夕日に照らされた園内と、陽が落ちてからの園内ライトアップで、時間によって異なる風

景を楽しめました。とくに上から見下ろす長崎港の眺めと夕日はとても綺麗で印象に残っています。ドイツ・ニールランドでかかるような曲調の音楽も流れていて、わくわくするような場所づくりがされていると感じました。歴史が好きな人、異国感を国内で味わいたい人にはとてもおすすめの間所でした。

(堀越翔)



グラバー園内の建物2階から見える夕日



夜のグラバー邸。  
グラバー園の開園時間は長いので  
いろいろな景色をみる事ができた

#### 中林ゼミナール

### 横浜中華街関帝廟参拝体験記

国際日本学部 国際文化交流学科 中林 広一  
国際日本学部 国際文化交流学科 2年 田畑 案吏・菱沼 朱

国際日本学部国際文化交流学科は4つのコースから成り立っている。そして、各コースでは2年次に演習系の科目である「コース演習Ⅰ・Ⅱ」を配当している。学生は3年次のゼミナールにて自身の関心に沿って学んでいくが、本科目はその前段階において必要とされるトレーニングを行うことを目的としている。その内容はコースごとに異なっているが、筆者(中林)の所属する文化交流コースでは校外学習を実施している点に特徴があり、今年度は関帝廟・東京ジャーマン・印